

テーマ型協働事業に対するコメント概要

事業名	外国人観光客おもてなし向上事業	
実施団体名	ふれあいステーションきくま	
協働団体	菊間中学校	
テーマ提示課	観光課	
事業概要	『みるきくまわる48』のマップで紹介された、48のポイントから厳選した10か所に中国語、英語表示の看板を中学生と一緒に創る。 外国人講師を招き、おもてなし研修会を開催。	
補助額	市補助額 580,000 (総事業額 1,032,400 補助対象経費 829,100 )	
コメント	実施団体	『みるきくまわる48』のマップで紹介された、48のポイントから厳選した10か所に中国語、英語表示の看板を中学生と一緒に創ることができた。 菊間中学の先生に聞いた所によると、「まちづくりに関わる大人との協働事業であったことから、中学生の意欲はこれまでと違った。看板等の目に見える成果を作ることにより生徒たちの菊間に対する考え方も少し変化した。海外の方を菊間で目にする機会が増えており、海外の方の動向に興味を持ち出した。」このようなことから後進の育成には効果があったといえる。 中学生の、菊間祭りの通訳ボランティア参加、観光客への案内、菊間冊子の配布など、この事業を通じて地域活性化への意識が高まった。 今後は中学生と連携し「なぜおもてなしが必要なのか」というワークショップを行い、菊間の人の理解を広げていくようにする。
	市民活動推進委員	対象エリアが菊間に限定されているため波及効果への疑問、また、菊間支所管内に設置した看板の字を大きくするなど誰が見てもみやすいものにしてほしい、看板を活用して菊間支所内に人を引き込む手段を考えてほしいとの意見があった。 他方、地元中学生や瓦の鬼師を巻き込んだ手法を評価する声もあった。当初掲げた事業計画が若干ハードルが高すぎたように見受けられるが、団体自体も課題として認識しているためステップアップできるのはと期待する声もあった。 対象エリアについても特定のエリアに限定するのではなく、その取り組みを他の地域と共有、連携、協働し広げていくことで今治地域全体の活性化に繋がるのであれば補助金活用は有効と思う。また、他地域との繋がりをもつ為には行政の協力も必要と感じた。 今後、事業を行うなかで課題がどんどんでてくると思うが、続けて課題をクリアすることでどんどんよくなると思う。
	テーマ提示課	当団体は日々の活動や地域のイベントなどで増加する外国人観光客のニーズ(観光施設などの外国語説明)を把握しており、本事業はそのニーズに応える事業となっている。地域の特産物である瓦を活用し、鬼師の協力を得ながら中学生と看板製作に励み、対外PR効果の高い事業である。 また、本事業により、地元中学生や地域住民の外国人観光客のおもてなし機運が醸成され、今後も外国人向けの、同様の取組みが今治市内他地域に広がることも期待できる。地域の各関係者を巻き込んだ、今治市を訪れる外国人観光客のおもてなし向上につながる事業である。